応用研究論文

秋田シンポジウムと東京フォーラムの活動について

高齢者の特殊詐欺被害防止へ向けて

渡部諭[1]，江口洋子[2]，小久保温[3]，澁谷泰秀[4]
大工泰裕[5]，藤田卓仙[2]，成本迅[6]

[1] 秋田県立大学　総合科学教育研究センター
[2] 慶應義塾大学　医学部
[3] 八戸工業大学　工学部
[4] 青森大学　社会学部
[5] 大阪大学大学院　人間科学研究科
[6] 京都府立医科大学大学院　医学研究科

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発センター（RISTEX）の戦略的創造研究推進事業「安全な暮らしをつくる新しい公/私空間の構築研究開発領域」平成 29 年度採択プロジェクト「高齢者の詐欺被害を防ぐしなやかな地域連携モデルの研究開発」は，近年増え続ける高齢者を狙った特殊詐欺被害への新しい防止策として，高齢者が自分で判断能力の評価を行うことができる詐欺抵抗力判定アプリを開発した．本年度，本プロジェクトが主催となり，令和元年 7 月 28 日に秋田シンポジウムを，令和元年 11 月 6 日に東京フォーラムを開催し，講演やアプリの実演などを通して詐欺対策に関する情報提供を行った．また，アプリの判定結果に基づく新しい詐欺防止策の構築のために，関係者が集まり今後の活動について協議を行った．本論文は，秋田シンポジウム及び東京フォーラム後のアンケート集計結果，及び 8 月に行ったインタビューについてまとめたものである．改めてインタビューを行ったことで本音に近い声を聞けた事が成果であり，今後の指針として，地域に根ざした活動が見えてきた．

キーワード：秋田シンポジウム，東京フォーラム、高齢者、特殊詐欺被害、詐欺抵抗力判定アプリ

著者の渡部を研究代表者とする研究開発プロジェクト「高齢者の詐欺被害を防ぐしなやかな地域連携モデルの研究開発」は，平成 29 年度，国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発センター（RISTEX）の戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」研究開発領域に採択された．

本プロジェクト（以下，本 PJ）は，高齢者を狙った詐欺被害から，高齢者自身が自らを守るため，セルフディフェンス力を向上させることを目的とする．そのために，心理学・医学の学術的知見をもとに開発したプログラムを高齢者に提供し，自らの弱点を認識させ，詐欺に対して備えさせる必要がある．そこでわれわれは，新しい詐欺防止策として，高齢者が自分で判断能力の評価を行うことができる詐欺抵抗力判定アプリを開発した．

本年度は，本 PJ が主催となり，秋田シンポジウムと東京フォーラムを開催した．近年深刻化する特殊詐欺被害や高齢消費者被害防止のためには，詐欺被害の現状を踏まえた産・官・学による幅広い取り組みが必要である．秋田シンポジウム及び東京フォーラムでは，詐欺被害の現況と対策，企業での取組紹介，そしてこのほど開発したアプリの実演などを通して詐欺対策に関する情報提供を行った．また，アプリ

責任著者連絡先：渡部　諭　〒010-0195 秋田市下新城中野字街道端西 241-438　公立大学法人秋田県立大学　総合科学教育研究センター．E-mail: watanabe314@akita-pu.ac.jp

の判定結果に基づく新しい詐欺防止策の構築のために，関係者が集まり今後の活動について協議を行った．

秋田シンポジウム

令和元年 7 月 28 日, ホテルメトロポリタン秋田に於いて「RISTEX プロジェクトシンポジウム 2019 in 秋田　深刻化する詐欺被害『大丈夫！』は，だいじょうぶ？」が開催された.「高齢者の詐欺被害を防ぐしなやかな地域連携モデルの研究開発」プロジェクトが主催し，後援は秋田県，秋田県立大学，秋田県警察本部であった．対象者は詐欺被害や予防に関心のある個人・団体（町内会，民生児童委員，高齢者等施設，社会福祉関連団体，自治体関係者，防犯関係者など）であった．当日，本学の小林学長と鎌田理事にもご出席いただき，小林学長より開会の挨拶をいただいた. 当日の参加者は合計 129 名であった.

実施内容

このシンポジウムでは, 警察庁科学警察研究所 犯罪行動科学部 犯罪予防研究室長　島田貴仁氏による基調講演をはじめ，アプリの実演，パネルディスカッションを行った.

島田貴仁氏の基調講演は「特殊詐欺を防ぐために：被害実態から考える」と題し，秋田県内における最新の詐欺被害状況や，詐欺の予防についてお話いただいた.

アプリの実演では，来場者全員でスマホや PC を使いアプリを試した.

パネルディスカッションでは,「サギ被害の予防に，今，何ができるか」と題して討論を行った．パネリストは京都府立医科大学　成本迅氏，秋田県警生活安全企画課　小番信幸氏，株式会社ミチノク　佐藤孝氏，民生・児童委員　男鹿市若美地区担当　海道由也子氏，の 4 名で，それぞれの詐欺被害予防に関する取り組み紹介と意見交換会が行われた.

アンケート集計結果

シンポジウム後のアンケート集計結果を以下に示す. 来場者 129 名のうち 76 名分のアンケートを回収し，集計を行った.

回答者の男女比はほぼ同等であった（図 1）．世帯状況は,「夫婦のみ」が最も多く，次に「子どもと同居」が多かった（図 2）．年代は 60 代が半数以上を占めていた（図 3）.

図 4 や図 7 から，回答者の 8 割は特殊詐欺の被害や未遂の経験がないことが分かるが，実際に電話がかかってきた，または被害に遭ったという回答もあった．またその様な振り込め詐欺などの電話がかかってきたことがあると答えた回答者 (図 4) のうち，8 割はその手口について知っており，最も多かったのは「架空請求詐欺」，次に「オレオレ詐欺」であった．（図 5，図 6）

ほとんどの回答者が「特殊詐欺などの被害に遭うのは特定の人だけだと思わない」（図 8),「おかしな勧誘だと思ったら誰かに相談する」（図 9）と答えている.

回答者の情報源は「TV」が最も多く，続いて「新聞」,「インターネット」であった（図 11）．普段利用している通信手段は,「固定電話」が最も多く，続いて「スマートフォン」,「パソコン」,「携帯電話（ガラケー)」であった（図 12）．また，回答者の半数以上が「趣味のサークルや自治会等，コミュニティで関わりをもって活動している」と答えていた (図 13).

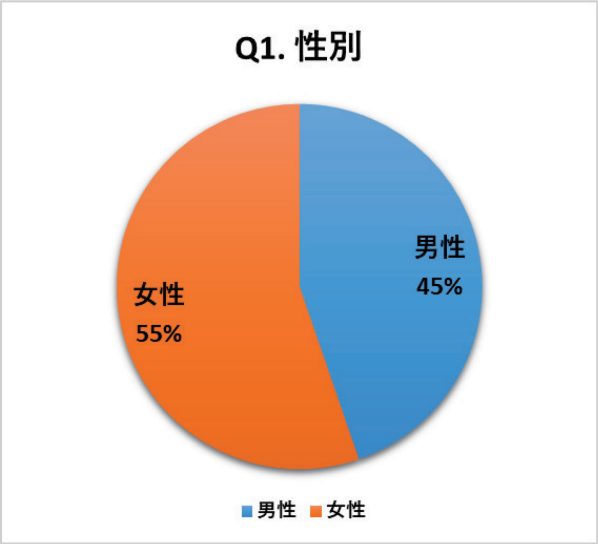

図 1　問 1 の回答

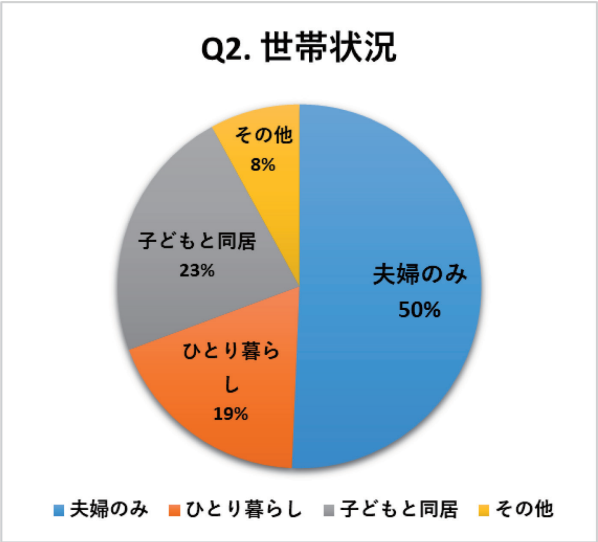

図 2　問 2 の回答

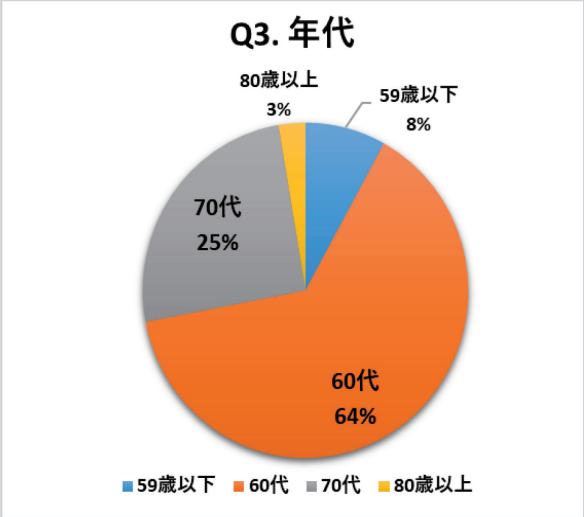

図 3　問 3 の回答

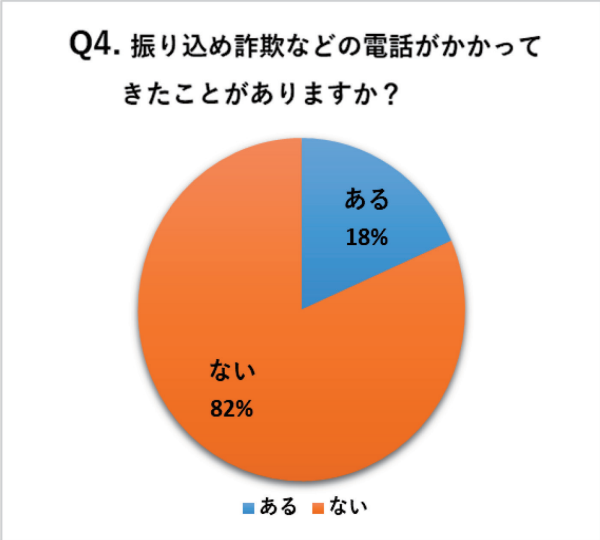

図 4　問 4 の回答

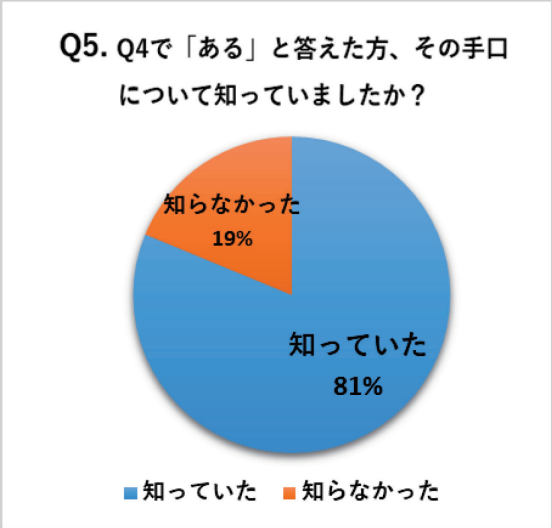

図 5　問 5 の回答

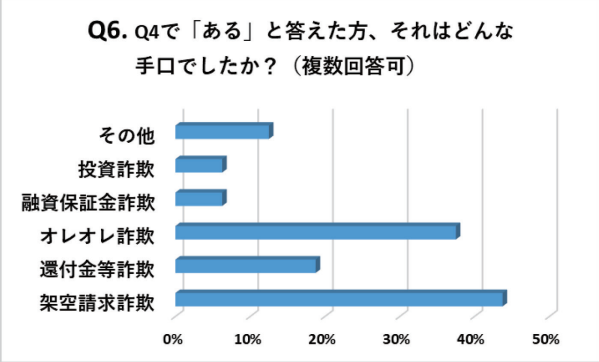

図 6　問 6 の回答

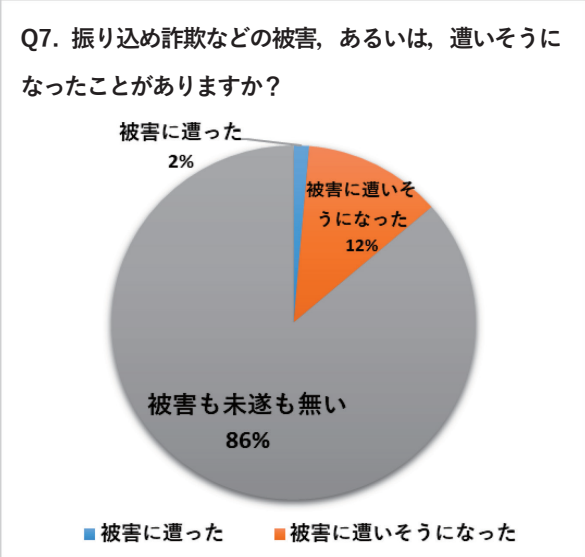

図 7　問 7 の回答

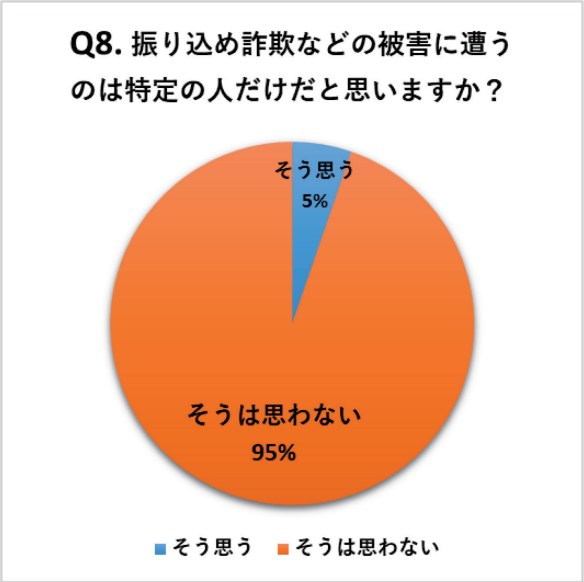

図 8　問 8 の回答

図 9　問 9 の回答

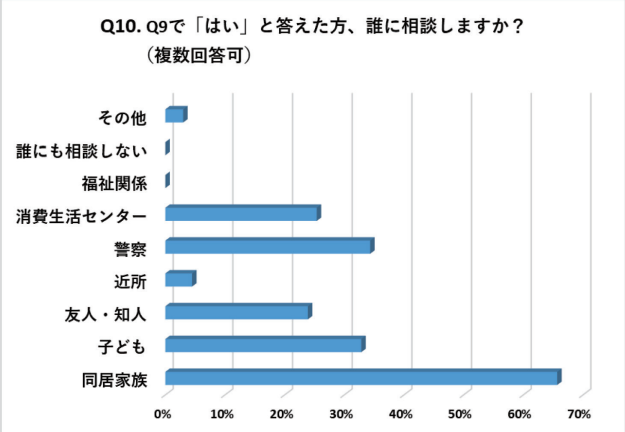

図 10　問 10 の回答

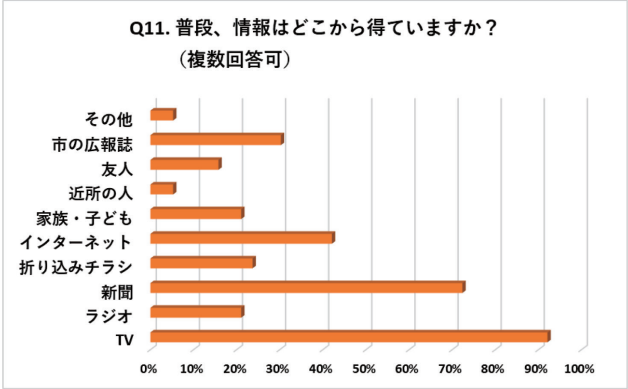

図 11　問 11 の回答

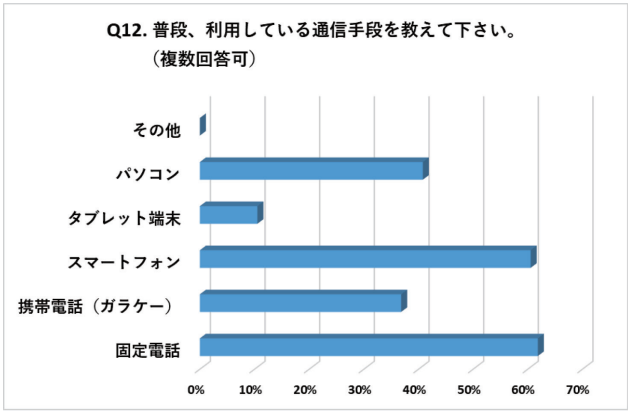

図 12　問 12 の回答

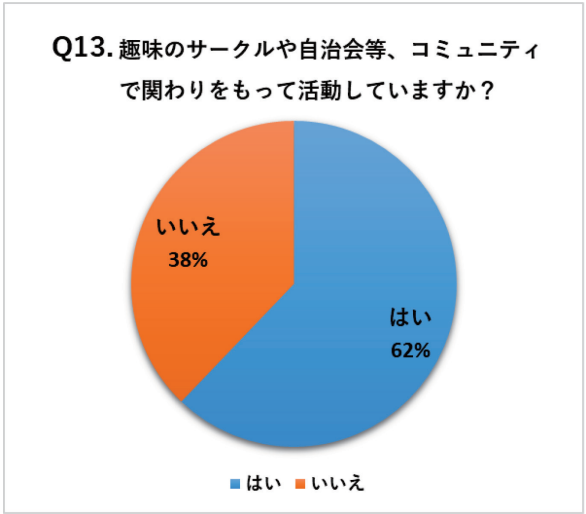

図 13　問 13 の回答

インタビュー結果

令和元年 8 月 22 日～23 日，秋田シンポジウム参加者 47 名に改めてインタビューを行った. 秋田市シルバー人材センターの会議室に於いて，学生アルバイトと高齢者が 1 対 1 の対面式で行った．質問項目は 7 つ．それぞれの回答を抜粋し表にまとめた.（表 1～表 7）

表 1　*質問 1 の回答*

1. シンポジウムについて良かった点を挙げて下さい.
普段の生活では参加できないような貴重な体験をすることができてよかった.
社会的なことに参加できてよかった. 社会参加に対する意識が高まった.
詐欺の例や実体験が聞けて良かった.
自分を見つめなおす機会となった. 自分自身に警鐘を鳴らしてもらったように感じた. 自分の欠点に気づくことができた.
詐欺に対する意識が強くなった.
家族で話し合って実際に対策を行うきっかけとなった. 家族間などのコミュニケーションをとることが多くなった.
人を簡単に信じてはいけないと改めて思うようになった. 物事を疑ってみるようになった.
シンポジウムの時間の長さも適切であった.
島田先生の話が面白かった.
成本先生の話が面白かった. 広範囲にわたって問題に向き合っていて真剣に対処している姿勢がよかった.
男鹿の海藤さんの話の内容が良かった.
自分は騙されないと思っていたけど不安な点も出てきた.「絶対合わない」という強い意志が「注意しなければ」という風に変わった.
最初は時間長いと感じていたが時間気にならなくなるぐらい楽しかった.

表 2　*質問 2 の回答*

2. シンポジウムについてもっと改良した方が良い点や要望を挙げて下さい.
長く感じた. もう少し短くしてほしい.
パネルディスカッションや質疑応答の時間が短い. もっと意見交換をしたほうがいい. もっと(警察や民生委員の人から)話が聞きたかった.
スクリーンが薄くて見えにくかった.
地域ごとの活動を知りたい.
もう少しわかりやすくしてほしい. 実演やイラストなどが多いほうがわかりやすい. 演劇風もよい.
もっと PR をしてほしい. 高齢者が多く住んでいる地域で頻繁に開いてほしい.
民生委員をもう 3 人くらい呼んで地域を比べてみたい.
70 歳前後の人の話を聞いた方が身近で馴染みやすい.
60 歳以上が見るから字の大きさに配慮が欲しい.

表 3　*質問 3 の回答*

3. もし次回にもシンポジウムの機会があったら, こんなシンポジウムなら出たいというようなものがあれば聞かせて下さい.
退職してからの生きがいの話, 老後生活の情報. 終活に関わる話.
実体験を聞くことのできるシンポジウム.
地域の話が聞きたい.
朝の番組を見るような気軽さで参加できるようなもの.
介護の実態. 介護が必要な人のいる家族間の付き合い方など.
周りの人のケアをどうしているのか, 身近にサポートや, 相談を聞いてくれる機関があれば知りたい.
パネルディスカッションのようなものがあるシンポジウム. 多くの例をだしてくれるもの.
詐欺事件に関わらず, 他にも実際に身近に起きている事件を取り扱ったもの.
携帯電話, ネットとの付き合い方, ネット被害の問題.
病気や怪我, 食生活や運動などの健康に関すること.
少子高齢化などの人口問題.

介護の話や認知症などの病気についての話を聞いてみたい．少人数で話し合うのもしてみたい．

表 4　*質問 4 の回答*

4. 幸いにも秋田では振り込め詐欺被害は少なくなっているが，全国的に見ると振り込め詐欺を含む特殊詐欺は減少していない．あなたはなぜだと思いますか．
都会などは人口が多くねらわれる人が多いから．
手口が巧妙であるから．
お金があるから．
その人の性格や人格．
家族や友人とのコミュニケーション不足．
気が付かないうちに詐欺にあっているのではないか．
地域性が弱いから．地域との連携ができていない．
もっと町内で互いに声をかけるべき．
（犯人が）動きやすいところに集まるから？
詐欺についての意識の低さ，知識の不足．
人は労せずに稼ぎたいから．
秋田は地域のつながりが強く防犯意識を高めあっているから．

表 5　*質問 5 の回答*

5. これまでにあなたのところにおかしな電話がかかってきたことや変な人が訪ねて来たことがありましたか．もしあった方は，その時にどうしましたか．
家に知らない人が来ても出ないようにしている．
知らない番号や非通知からかかってくることがあるが，出ないようにしている．
迷惑メールやはがきは無視し，押し売りは断っている．
自宅の電話の設置をやめた．
融資金についての話があったが断った．
家にしるしのようなものがついていたら消すと，家を訪問してきた不審な人に言い断った．
はがきが来たことがあったので警察に相談した．
電話は 2 度ほど，どちらも「オレオレ詐欺系」→①名前の確認をされたが，違うと答えた．何の用かとぶっきらぼうに答えたら電話を切られた．②近くで工事しているからついでに安くする，と下水管を見たいと言われ，「詰まっている」と言われた．しかし新築 2 年だからあり得ないと言い，どこの業者と問いただし，名刺を見せるように言ったところ去っていった．
メールでサイトにアクセスしたと架空請求がきたが，携帯会社に確認して，放置．
ハガキで最終通告，自宅の差し押さえのもの→県の生活センターに相談，放置．
とある会社からの恐喝に遭い，家族も巻き込んでしまったが，詳しい知人に相談し，解決．
ハガキで給料の差し押さえをするというものと，裁判に訴えるといったもの→消費者センターに相談．
警察が持っている詐欺グループがもっていた名簿に名前が載っていたから注意しろと言われた．
ハガキで来て振込みを煽るもの．大きい会社．実際に秋田支店の店に連絡し，嘘のものだと分かり，放置．
もし電話やメール来たら話に乗らないようにする，子供が近くに住んでるため確認する（オレオレ詐欺），専門的な内容の電話の場合は機関に確認する．
屋根の修理が 2 回きた→1 回目きたときほとんど直ってない．2 回目きたとき断った．
霞ヶ関から立派なハガキが来た→交番で確認したら詐欺だとわかった（翌日の新聞で同じハガキ来た人がお金を取られていた）．
かかったふりをする．

表 6　*質問 6 の回答*

6. 詐欺抵抗力判定アプリについては理解しましたか．これからアプリで診断をしてみようと思いましたか．他の人にもアプリを教えてみようと思いましたか．
理解することができた．アプリは利用している．友人にもアプリのことを紹介した．
設問が多い．
勧めたい．病院の待ち時間にもいいと思う．
ほとんど分からず，ピンとこなかった．そもそもスマホもなく，パソコンもよくわからない．
スマートフォンをもつ同世代があまりいないため，紙媒体等であれば人に勧めたい．
やっても「こんなもんか」で終わる．
時々診断をするようにしている．妻にはやらせてみた．
これが本当に役に立つのかという疑問がある．
他の人には勧めない，これで安心されたら困るから．
あまり必要性を感じなかった，アプリを使える人は詐欺に引っかからないと思う．これからも診断しようとは思わない．

表 7　*質問 7 の回答*

7. その他，話したいと思っていること．
家族間での話し合いが重要である．
アプリをうまく使えない高齢者が詐欺にあう被害が多いと思うので，このような高齢者がアプリを使えないといけないのではないかと思った．そのために質問項目を少なくしたり，絵を入れたりしてわかりやすく手軽にできるものにしたらいいのではないかと思った．小学校の授業に取り入れることができれば，その子供が大人になってからの知識にもなるし，祖母や祖父にアプリのことについて話すことでアプリの存在が伝わるのではないかと思った．また，大人も子供から言われたほうが自身の状況を受け入れやすいのではないか．シルバー人材センターの施設に入っている人以外の多くの人たちにもアプリの存在を知っていってほしいと思った．
実際の状況やその時の心理状況がアプリでは体現されていないと感じた．はい，いいえのみでは実際の詐欺の状況とかけ離れていないか．詐欺グループが電話をしてきたところで詐欺を食い止めることが大事．警察が行っている無料の留守番電話の貸し出しサービスのような活動をもっと広めていってほしい．また，自治体の活動も広まっていけばいいと思う．
高齢者の生活に役立つためのイベントに参加したい．孤独にならないためにも地域活動は大事だし，一人暮らしの人のフォローをしたい．
手口が巧妙になってきて怖い．大きな会場だけでなく，地域内でもこういった活動がほしい．
ほかの世代ともっと話し合えるような場が欲しい．
開く場所をイオンなどの車で来やすいところなどだったら行きやすい．定期的に開いてほしい．
ATM で大きい額を降ろす時，銀行員に認知症の疑いで見られるのが嫌だ．
アプリに音声をつけてほしい．
自動通話録音警告機の話が一番ためになった．これ 1 つあれば効果的，相手が警戒する．利用条件，取り付け方法の説明があればよかった．
若者にも電話が来るはずなのにそういった報道がされないから実態を知りたい．
民生委員の活動に協力してあげたい．
実例を持ってる人は情報広げてほしい．

東京フォーラム

同様に，令和元年 11 月 6 日，グランドアーク半蔵門に於いて「フォーラム 2019 in 東京「深刻化する詐欺被害『大丈夫！』は，だいじょうぶ？」」が開催された．主催「高齢者の詐欺被害を防ぐしなやかな地域連携モデルの研究開発」プロジェクト．後援は金融庁，国民生活センター，東京都都民安全推進本部，警視庁犯罪抑止対策本部，警察政策学会市民生活と地域の安全創造研究部会，日本市民安全学会，秋田県立大学．主に東京都を中心とした警察関係者や自治体関係者が対象となっており，当日の参加者は 81 名であった．

実施内容

このフォーラムでは，警察庁科学警察研究所 犯罪行動科学部 犯罪予防研究室長　島田貴仁氏による基調講演をはじめ，警視庁犯罪抑止対策本部　管理官　濱田勝行氏，東京都都民安全推進本部総合推進部　治安対策課課長　西川秀樹氏，世田谷区危機管理室地域生活安全課課長　吉田忠博氏が講演を行った．また，本 PJ メンバーである青森大学副学長　澁谷泰秀より青森実装フィールドの活動紹介と，アプリ開発者によるアプリの実演を行った．

島田貴仁氏の基調講演は「効果的な特殊詐欺対策：人間心理の落とし穴から考える」と題し，特殊詐欺は誰もが被害に遭う可能性があるとして，予防の必要性を伝えた．

次に，警視庁犯罪抑止対策本部　管理官　濱田勝行氏より「東京都内における特殊詐欺の現状と防犯対策」と題して，実際にあったアポ電の音声も交え，詐欺被害の現状と警視庁が行っている対策についてご紹介いただいた．

また，東京都都民安全推進本部総合推進部　治安対策課課長　西川秀樹氏より「東京都における特殊詐欺の被害防止対策」と題して，東京都における３つの特殊詐欺被害防止対策をご紹介いただいた．

同様に，世田谷区危機管理室地域生活安全課課長吉田忠博氏より「世田谷区における特殊詐欺の現状と対策について」と題して，詐欺被害の現状と世田谷区独自で行っている対策をご紹介いただいた．

アンケート集計結果

フォーラム後のアンケート集計結果を以下に示す．来場者 81 名のうち 37 名分のアンケートを回収し，集計を行った．質問は記述式で「フォーラムの感想」と「アプリの感想」とした．それぞれの回答を抜粋し表にまとめた．（表 8，表 9）

表 8　*東京フォーラムの感想*

フォーラムの感想
地域との連携をどう構築できるのかが関心事です．地元で地域活動している者として安全安心が定着することを目標に行政とも協議しながら進めたいと思います．（まずは，自分たちの自治会やローカル会合で説明を続けていきます．）
私は将来警察官を目指しており，その中でも特殊詐欺を扱う刑事になりたいと考えています．東京都や今の日本の詐欺事情を知ることが出来，ますます関心を持つとこが出来ました．
有識者，関係企業，行政それぞれの立場からどう取り組んでいるかを詳しく知ることができた．
各関係機関（東京都，警察，自治体）の取り組み状況が分かって，とても参考になりました．
無関心層への広報啓発方法について頭を悩ませているので，島田先生の無関心層の行動を起こす仕組みのお話について大変興味を持ちました．また，注意喚起にも限界があるため，日常生活の中で非意図的に守られる安全インフラの整備は，急務と思われます．
特殊詐欺の手口等は，日頃からよく知っていたが，細かい数字や区の対策の詳細が聞けて良かった．また，人間心理の面から対策を考える必要があるという観点を持っていなかったため，大変参考になった．広報の作成に活かしたい．
様々な部署で多くの分析がなされていることが分かりました．しかしながら，これだけ対策をとっているにも関わらず根絶されないのは非常に残念です．なんとか絶無のために頑張りたい．
第１部：人間の心理や犯罪構造の段階毎の対策についてお話しいただき，現行の対策の検証に役立てられそうな内容だったので，よかった．

表 9　*アプリの感想*

アプリの感想
問題の前半は詐欺と関係は無いと思っていましたが，性格が分かることでその人の傾向が分かるのは面白いと感じました．70 問はやや多い．
質問事項が非常に多い．注意の判定をうけた者に対し，自動通話録音機を無償貸与するといった連携が出来ると良いと思いました．
実際にアプリを使ったことがあります．今後，アプリの普及に努めていきたいです．
設問数が長い（多い）．回答と，アドバイスの関係がややわかりにくい．同じ人でも年齢を追うに従って，スコアに変化があるのか．
質問数が多く，20 問くらいであれば，出前講座で使ってみたい．
アプリ作成の目的，方向性などについては，素晴らしいと思うが，現場レベルでの感想としては，いかにして高齢者の方々に広くアプリの存在を周知し，実践してくかが課題かと思います．
詐欺に関する意識付けの方法として，有効な手段だと感じました．
高齢者の集まり等で活用を検討してみたい．
特殊詐欺を人ごとではなく，自らの特性を理解した上で，そのアドバイス，相談場所について考えるもので参考になると思います．アプリの実演は分かりやすかったです．
診断結果が明快で，詐欺への関心も高まると思うので，高齢者に啓発する際に紹介してみたい．
事前に QR コードでアクセスしました．設問数が多く，高齢者が一人で使用するのは，ハードルが高い感じです．「危険」となるロジックを基に，具体的な注意を示すと良いと思います．
アプリは実際使ってみました．今日の話を用いた上で，改めてアプリの構成を良く理解できました．
このような視点からの被害防止もはかれるのかと感心した．機会があれば活用してみたい．

まとめ

秋田シンポジウムの後に改めて行ったインタビューでは，「今までこんなに深く考えたことはなかったが，詐欺に対する意識が高くなった」という声が多く聞かれた．他人事として捉えるのではなく，自分の事として考えるよいきっかけとなったように思う．また，「パネルディスカッションでの男鹿市民生委員の話が良かった」という声も多数聞かれた．地域一人一人の情報を把握して活動している点が好評を得ていた．他にも「民生委員をもう 3 人くらい呼び，地域を比べたい」，「もっと実例を知りたい」，「高齢者が多く住んでいる場所で開催して欲しい」といったように，身近な事に非常に関心が高い事も分かった．アンケートの他に改めて行ったインタビューで，本音に近い声を聞くことができたのは成果だった．今後その分析を更に深めていきたい．

東京フォーラムは，対象者が主に東京都を中心とした警察関係者や自治体関係者であったことから，「各関係機関の取り組み状況が参考になった」という意見が多数あった．参加者の中には警察官を目指す学生もいた．アプリに関しても，「高齢者に啓発する際紹介してみたい」，「自動通話録音機の無償貸与と連携出来るとよい」といった意見があり，今回の目的である「詐欺対策に関する情報提供」及び「アプリの判定結果に基づく新しい詐欺防止策の構築」という意味で，非常に有意義な活動となった．

今後の指針として，民生委員との連携や，コミュニティセンターのような場で高齢者を対象にアプリを使った詐欺予防活動を行うなど，地域に根ざした活動が見えてきた．さらに東京でも同様の活動が出来ればと思う．

謝辞

秋田シンポジウム及び東京フォーラム開催にあたりまして，国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発センター（RISTEX）には研究開発費などお世話になりました．また，関係各位にも厚くお礼申し上げます．研究室の鈴木さんには，シンポジウムとフォーラムの準備，本論文の作成に

ご協力いただきました．お礼申し上げます．

文献

JST-RISTEX［研究開発成果実装支援プログラム］（2019）.『社会実装の手引き――研究開発成果を社会に届ける仕掛け』. 工作舎.

社会技術研究開発センター・秋山弘子（2015）.『高齢社会のアクションリサーチ：新たなコミュニティ創りをめざして』. 東京大学出版会.

（令和 2 年 1 月 10 日受付
令和 2 年 1 月 17 日受理）

Akita symposium and Tokyo forum

Web application to help prevent telephone fraud against the elderly

Satoshi Watanabe[1], Yoko Eguchi[2], Atsushi Kokubo[3], Hirohide Shibutani[4]
Yasuhiro Daiku[5], Takanori Fujita[2], Jin Narumoto[6]

[1] *Research and Education Center for Comprehensive Science, Akita Prefectural University*

[2] *Department of Neuropsychiatry, Keio University School of Medicine*

[3] *Department of System and Information Engineering, Faculty of Engineering Hachinohe Institute of Technology*

[4] *Faculty of Sociology , Aomori University*

[5] *Graduate School of Human Sciences, School of Human Sciences Osaka University*

[6] *Department of Psychiatry, Graduate School of Medical Science, Kyoto Prefectural University of Medicine*

We created a web application that elderly people could use to determine whether they equipped to resist the telephone scams that are rampant in Japan with a growing number of victims. This application was developed through our project Research and Development of a Flexible Community Cooperation Model Preventing the Elderly from Becoming Involved in Fraud Cases, which was begun in 2017 as a formal project within the larger initiative Creating a Safe and Secure Living Environment in the Changing Public and Private Spheres begin conducted by the Research Institute of Science and Technology for Society (RISTEX), a subdivision of the Japan Science and Technology Agency (JST). We held a symposium in Akita on July 28 and a forum in Tokyo on November 6 to discuss measures that an effectively fight fraud. We were able to discuss our new approach to combat fraud with our application and our future plans at the two meetings. This article reports our interviews of the participants on the two events, and they helped us understand the effectiveness of our work.

Keywords: Symposium, forum, elderly people, a telephone scam, an application for judging a resistance to fraud

Correspondence to: Satoshi Watanabe, Research and Education Center for Comprehensive Science，Akita Prefectural University, 241-438 Kaidobata-Nishi, Shimoshinjo-Nakano, Akita, Akita 010-0195, Japan. E-mail: watanabe314@akita-pu.ac.jp